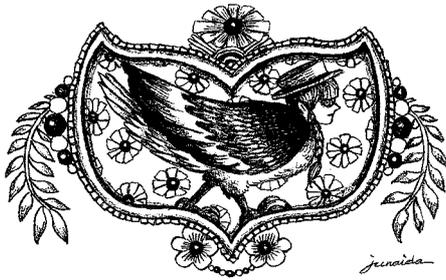


朝日歌壇 俳壇



〈日曜日のプロローグ 42〉 junaida

川野里子選

雪軍士はまた雪積みて保育器に一糸まとはぬ
 小さなあくび (富士宮市) 高村富士郎
 父を叱りわが声ふるえ帯びるとき夜の吹雪の
 首絶えている (横浜市) 黒坂 明也
 東京都廳界外分場夢の島橋一列に草刈るわれ
 ら (市川市) 山崎 蒼子
 引き金を引くのはたぶんこんなときジェット
 噴霧のゴキブリ退治 (宇治市) 濱岡 学
 水を弾く素肌のようにきつぱりと断りてし
 を見続ける吾娘 (流山市) 坂本真衣子
 夫逝きて名義変更しなければ 私これから生
 きていくんだ (津市) 亀井百合子
 稲やかに暮らしておくれ私の裡に棲む鬼赤た
 か青たか (東京都) 白竜十恵子
 鉛ほしい？みたいに訊かないンタビュアー
 「少子化ですが、子どもはほしい？」
 (流山市) 汐入 音佳
 ミツバチを食うスズメバチうめもどきに並び
 いる時争わず吸う (福岡県) 添田 敏夫
 温泉の湯気のさなかに漂いぬおのおのがたの
 昨日今日明日 (富谷市) 川村 空也

【評】一首目、富士の孤高の美しさと嬰兒の無二の存在感が響き合う。二首目、
 老いた父を叱った辛さが吹雪の音さえ消す。三首目、草刈りのリアルさが夢の島を
 露わにするようだ。十首目、湯気のなかに「おのおのがた」の思いが漂うひととき。

佐佐木幸綱選

しんしんと降る雪恋し暴風とともに真冬がど
 かごと来た (酒田市) 富田 光子
 ☆早曉を門に三尺の雪を掻く老いひとり住む生
 きの証に (大館市) 小林 鏡悦
 大雪に打ちのめされし街並の屋根の雪庇も項
 垂れてゐる (札幌市) 伊藤 哲
 夢うつ除雪車の音ひびきおろ恐竜のかくイ
 ビキのような (札幌市) 福田眞理子
 一月尽雪止む間に大き月除雪の手を止めしは
 し眺むる (鶴岡市) 大沼 三枝
 除雪車の首に目覚むる厳冬の庄内平野に雪降
 りつつく (横浜市) 白川 修
 これならば曲がった腰でもできるからと母は
 毎朝雪かきをする (所沢市) 葵酒 志穂
 東京は冬の青空布団干し雪国に住む母を思い
 て (東京都) 丸茂 信行
 友達と帰る楽しさ覚えたり送り迎えの役目も
 終わる (高槻市) 藤本恵理子
 回文は亡母お手の物「真鯛食べた婆様」思い
 出し身をほぐす (大仙市) 佐々木律成

【評】第一首から第七首まで、日本各地の雪の歌が並んだ。今年は、北海道・東
 北をはじめ日本海側の各地は大雪で大変らしい。荒々しい雪を表現した一首目、一
 人住まいの雪の朝をうたう二首目をはじめ、それぞれの雪を読み取ってほしい。

高野公彦選

☆早曉を門に三尺の雪を掻く老いひとり住む生
 きの証に (大館市) 小林 鏡悦
 除雪など大丈夫だと強がれど痛みが分かるの
 は明日の朝 (五所川原市) 戸沢大二郎
 欲しいならグリーンランドにしてやろうとア
 メリカ襲う強烈寒波 (鎌倉市) 小笹岐美子
 八十路こえ艱難辛苦の人生は歓喜に転ず「第
 九」を歌って (伊勢原市) 瀬戸恵津子
 「二、三も天に召されて茂吉翁と楽しみたいや
 り」として (東京都) 上田 国博
 「鬼は外」が先か「福は内」が先か探めて日
 系人らに時経つ (アメリカ) ダンバー悦子
 随時計、カイロ、お守り、受験票、また確認
 し子を送り出す (奈良市) 山添 聖子
 レジを打つ人ゐるで呉るありがたきドラッグ
 ストア地域を支ふ (秦野市) 関 美津子
 永遠の時を封入したやうに硝子作品に息衝く
 気泡 (札幌市) 伊藤 哲
 配膳を終へたロボット出番待つカウンター横
 所在無きげに (茨木市) 瀬川 幸子

【評】1首目、雪掻きをしないと近所の人心配するから、と頑張る。2首目、
 除雪後、時を経て筋肉痛が起こる辛さ。3首目、痛烈なトランプ批判の歌。4首
 目、八十歳を越え、初めてベートーベンの「第九」を合唱した時の深い喜び。

永田和宏選

「無理するな元気なうちに逃げてこい」豪雪
 気遣う息子の電話 (北秋田市) 高橋 充
 東京に来たらと息子言ってくれど雪から家を守
 らにやならん (山形市) 佐藤 清光
 琵琶湖から春が流れるようにして疎水の花は
 開きはじめる (京都市) 美玉 孝文
 によっきりと手足寒々突き出してあと三月着
 る六年生の服 (羽咋市) 北野みゆ子
 アメリカは自由と民主主義の国「だった」と
 書かれる孫の教科書 (竹田市) 伊藤信一郎
 抜けがけのような選挙はしないだろう本当に
 信を問うつもりなら (佐渡市) 藍原 秋子
 白雪を冠る墓石のならばをりしんしんと
 近づいてくさ (神戸市) 松本 淳一
 麻雀とバイトと恋に明け暮れた我が青春の今
 出川下宿 (守谷市) 久保田洋一
 今日もまた飲んでラーメン午前一時規則正し
 いこれも生活 (大阪市) 渡辺たかき
 夫の字をひっくりかえせば羊だくと逆さで振
 ってもお金はない (西条市) 丹 佳子

【評】豪雪を気遣って、引越を勧める息子の電話(一首目)。しかし、引越
 したらこの雪から家を守れなくなることも確か(二首目)。異常に雪の多い冬。
 美玉さん、京都の春は疎水の桜から実感される。十首目は番外地でもいいのだが。

俳句時評 鈴山實と佐藤鬼房

岸本 尚毅

「残雪や山女を炙り雀喰み」は鈴山實
 の句帖に残された未発表句。雀を食って
 いるのだ。鈴山は今年生誕百年。その全
 句集が「新装版 鈴山實全句集」(朔出
 版)として二十余年ぶりに復刊された。

その作風を変えていった。
 代表句に「陰に生る麦尊けれ青山河」
 などがあり、東北の風土に根ざした重厚
 な作風を持つ鬼房は、最晩年も「混沌と
 生き獲煙を耕せり」(翅を欠き大なる
 死を急ぐ蝶)のような、何か重いものを
 背負ったかのような句を詠み続けた。

「目に見えて秋風はしる壁曇」(雨つ
 ぶの雲より落つる燕子花)などの洗練を
 極めた句で知られる鈴山だが、「終戦直
 後の社会性俳句時代、六十年安保後の長
 い試行錯誤時代」(長谷川権)があっ
 た。「社会性俳句」とは「起重機にいた
 く異なる方向へ、より緩慢な過程を経て
 句は高く評価していた」といふ。(俳人

風信

第37回日本伝統俳句協会賞 協会賞は兵庫
 県の藤井啓子さん(年齢非公表)の「祇園
 祭」(30句)に、新人賞は東京都の菅谷糸さん
 (48)の「日の匂ひ」(30句)に決まった。
 赤松勝著「橋岡石の百句」「銀河濃し岩
 波新書得て帰る」をはじめ読み解く。「掻
 き水水にもどろし役者かな」「銀河系のとあ
 る酒場のヒヤンス」(ふらんす堂・1650円)

☆は共選作。入選作はデジタル版などに掲載・収録
 し、記事やSNSで引用することがあります。投稿は未発
 表の自作のみ、二重投稿不可。選者が添削する場合があります。
 郵便での投稿は無地のはがき1枚に1作品、横
 に住所、氏名、電話番号を明記。〒104-8661
 晴海郵便局私書箱300、短歌は「朝日歌壇」、
 俳句は「朝日俳壇」へ。ネットからも投稿でき
 る(「朝日歌壇」のホームページ参照)。